

## ■ 学術誌「健康・栄養食品研究」論文募集のご案内

学術誌「健康・栄養食品研究」への投稿論文を随時募集しております。

当協会の学術誌「健康・栄養食品研究」は、健康食品に関するオープンアクセスオンラインジャーナルです。ヒト試験（介入試験等）以外の論文、研究会の報告、総説なども投稿できます。また、英文での投稿も受け付けております。

最新刊：<http://jhnfa.jp/> [投稿規定などはこちら](#)

投稿先・問合せ先：学術情報部 E-mail：[gakui@jhnfa.org](mailto:gakui@jhnfa.org) 電話番号：03-3268-3133

## 健康食品等に関する 日本語記事情報（2023年9月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

**なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。**

英文記事情報については別途お送りいたします。

### ○ 記事のカテゴリー（見出しをクリックすると該当カテゴリーに移動します）

[安全性関連情報](#)

[表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等](#)

[行政・法令関連情報（その他）](#)

[海外公的機関情報](#)

[市場予測、動向（食品・健康食品全般）](#)

[具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報（市場予測・動向等）](#)

[市場・企業動向、注目ビジネス情報](#)

[消費者意識等の調査・分析](#)

[食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報](#)

[その他の食品関連科学・技術情報](#)

[その他の科学・技術情報](#)

[その他](#)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

## ○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）、冒頭文または記事のポイントとなる部分（民間の情報源には了承を得た上で転載）を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

## ■ 安全性関連情報

### [TGA]ターメリックまたはクルクミンを含む薬 - 肝障害のリスク

食品安全情報 blog2 - 230823 <https://uneyama.hatenablog.com/entry/2023/08/23/173817>

23日分の中ほどの太字見出しです。オーストラリア政府サイト（Therapeutic Goods Administration : TGA）情報。

### 食品安全情報（化学物質）No. 18/ 2023（2023. 8. 30）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202318c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

[記事のカテゴリーに戻る](#)

## ■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 行政・法令関連情報（その他）

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 海外公的機関情報

### タイ FDA、GMP 証明書の事前登録で通関業務を迅速化（タイ）

ジェトロ（日本貿易振興機構） - 2023/8/25

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/08/017aec72752cc554.html>

### 【ウェビナー】欧州（EU）の食品規制の基本

ジェトロ（日本貿易振興機構） - 2023/8/25

<https://www.jetro.go.jp/events/myz/d0df85cbd04e2d79.html>

### 米 FDA、化粧品現代化規制法（MoCRA）施行に向けパブコメ募集（米国）

ジェトロ（日本貿易振興機構） - 2023/8/25

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/08/15e6870f81ff1dc1.html>

以下の 8 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2023/8/23 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

[前号 \(8月号 No.2\) の「■安全性情報」で取り上げたものと一部重複があります。](#)

[3. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品中の部分水素添加油\(PHOs\)に対する最終行政措置を完了したと公表](#)

[4. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、カルシジオール水和物に対する換算係数の導出を含む、ビタミンDに対する耐容上限摂取量に関する科学的意見書を公表](#)

[30. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中のミネラルオイル成分に関する Q&A を更新 \(前半 1/2\)](#)

[31. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中のミネラルオイル成分に関する Q&A を更新 \(後半 2/2\)](#)

[46. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、欧州食品安全機関\(EFSA\)の新たなリスク評価「食品に残留するミネラルオイルの一部は依然として健康への懸念がある」に関する情報を公表](#)

[47. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、16週齢未満の乳児用食品中の食品添加物としての炭酸カルシウム\(E170\)の再評価、及び全人口集団用の食品中に使用する食品添加物としての炭酸カルシウムの追跡調査に関する科学的意見書を公表](#)

[59. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、「コリンと、胎児及び母乳だけで育てられた乳児の正常な肝機能への寄与」に関する科学的意見書\(欧州議会及び理事会規則\(EC\)No 1924/2006 第14条に準拠した健康強調表示の評価\)を公表](#)

[88. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)は、ヘンプ\(Hanf:麻\)茶の煎じ茶に含まれるカンナビノイドの量の再測定に関する情報を公表](#)

[記事のカテゴリーに戻る](#)

## ■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

今回は特に見当たりませんでした。

## ■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

### [エビデンス充実、フェムケア市場に商機あり（特集：スーパーフルーツ）](#)

健康メディア.com - 2023/8/22 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17986](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17986)

「天然ビタミン・ミネラル」「抗酸化機能」をキーワードに市場を形成してきたスーパーフルーツは、米国市場でブレイクしてから10年以上の時が経った。日本市場では、サプライヤー各社がフルーツの“ヘルシーイメージ”に依存することなく、高血圧予防、体脂肪減少、アイケア、血流改善、冷え対策、糖質対策などの多彩な機能性を解明してきた。それらの研究成果は、アムラ、マキベリー、パッションフルーツ、ライチ、カシス、ビルベリーなど、スーパーフルーツを主原料とする多種多様な機能性表示食品の受理に繋が-----

## 「運動パフォーマンス」「疲労感軽減」「快眠」等、エビデンスベースの提案活発（特集：アミノ酸）

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17984](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17984)

スポーツ時の栄養補給や疲労回復などで活用されているアミノ酸は、「BCAA」「EAA」などのプレミックス製品のほか、複数の活力成分を混合した製品が好調に推移している。新商品は今年、コンビニのセブンイレブンから「ウェルビーイング」をテーマとする商品も登場。時間栄養学に基づく取り組みもみられはじめた。機能性表示食品は835品目の届出が受理されており、サプリメントのみならず菓子類の商品化も目立つ。5-ALAは今年7月、ソフトキャンディでの届出が受理……

## 新油市場 300 億円、家庭用の“サプリ的オイル”活用が伸長(ZOOM UP：注目の植物油)

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17977](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17977)

アマニ油、シソ・エゴマ油、米油、MCTオイルを中心とした「新油」の市場が拡大している。大豆、菜種を中心に世界的な原料価格の高騰が続く植物油市場では、大手各社による価格改定を強いられ、売上増も業務用の需要減となるなど苦戦が続く。こうした中、家庭用の「サプリ的オイル」の市場拡大が続いている。アマニ油では、抗メタボやダイエット系だけでなく美肌訴求の新たな機能性表示食品も8月に登場。フレイル関連など新たな機能性の追求、化粧品原料への新展開といった取り組みが……

## アフターコロナの注目成分 大手採用続き、トレンドの兆し（特集：HMB-Ca）

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17973](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17973)

筋肉の合成作用の促進、分解作用の抑制、さらには脂肪減少作用などの作用から、ボディメイク目的に話題を呼んだHMB-Ca。近年の筋トレブームから、プロテイン以上に効果が期待されるとして認知も年々広がっている。一方で、高齢者のロコモフレイル対策としての利用も拡大。特にコロナ禍での運動不足などから、筋肉の衰えを自覚する消費者が増加。こうした背景からHMB-Caはアフターコロナにおける大注目成分として業界から関心が寄せられている。実際、今年に入り味の素、キリンホールディングスが「HMB-Ca」を配合した機能性表示食品を上市。相次ぐ大手の採用により、再びトレンドの兆し……

## コリン補給剤として 世界的ニーズ (特集: $\alpha$ -GPC)

健康メディア.com - 2023/8/22

[https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/17971](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/17971)

「 $\alpha$ -GPC」は、脳サポートの有効性が知られるほか、成長ホルモンを促進する作用から子供向けサプリとして利用されている。近年ではスポーツ時における集中力の向上や、俊二の判断力を助けるとしてスポーツニュートリションへの採用も増加している。最新の研究では日油が e スポーツのパフォーマンスを向上させるという研究成果を発表。新たな利用拡大が期待させる。また、 $\alpha$ -GPC はコリンの前駆体でもあるため、不足しがちなコリン補給を目的とした用途として世界的に利用されており、国内でも注目が-----

## 【別冊エイジングケア】ウェルビーイングをテーマに健食・コスメ脚光

健康メディア.com - 2023/9/4 [https://www.kenko-media.com/health\\_idst/archives/18075](https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/18075)

令和4年10月1日時点の総務省「人口統計」によると、日本の総人口は1億2,495万人。その内65歳以上の人口は3,624万人で、高齢者の総人口に占める割合は29%となった。2025年には30%を超えることが予想されている。高齢者の増加に伴い、年金や社会保険料など現役世代への負担は、年々膨らみ続けている。15歳~64歳の生産年齢人口が1人の高齢者を支えるのに掛けられる人数は2.1人となり、高齢者1人を4人で支えていた2000年と比べ半減したことになる。医療費の削減が日本の課題となって久しく、その対策の一つとして健康長寿の延伸に産学官挙げて取り組んでいる。こうした中、健康産業の役割は大きく、健食および化粧品業界では、エイジングケア向けの製品開発が活況を呈している。実際、美容に関する機能性表示食品の受理数は増加傾向で、化粧品分野でも幹細胞培養液やNMN、その他新規成分の化粧品の上市が目立つように-----

[記事のカテゴリーに戻る](#)

## ■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

今回は、特に見当たりませんでした。

## ■ 消費者意識等の調査・分析

### [30103] プラントベースフードに関するアンケート調査 (第2回)

マイボイスコム - 2023年8月

[https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product\\_id=30103](https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=30103)

## ■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

### インスリン抵抗性に関連するヒト腸内細菌の網羅的解析

—腸内細菌を利用した糖尿病の治療介入につながる成果—

理化学研究所 - 2023/8/31 [https://www.riken.jp/press/2023/20230831\\_1/index.html](https://www.riken.jp/press/2023/20230831_1/index.html)

東京大学

医薬基盤・健康・栄養研究所

日本医療研究開発機構

神奈川県立産業技術総合研究所

理化学研究所（理研）生命医科学研究センター 一粘膜システム研究チームの大野 博司 チームリーダー（神奈川県立産業技術総合研究所（KISTEC）腸内細菌叢プロジェクト プロジェクトリーダー（研究当時））、窪田 哲也 上級研究員（研究当時、医薬基盤・健康・栄養研究所（NIBIOHN）国立健康・栄養研究所臨床栄養研究部長（研究当時）、KISTEC 腸内細菌叢プロジェクト サブリーダー（研究当時））、竹内直志特別研究員（研究当時）、理研統合生命医科学研究センター（研究当時）の小安 重夫 センター長（研究当時、現 理研生命医科学研究センター 免疫細胞システム研究チーム チームリーダー）、東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科の門脇 孝 教授（研究当時）、同病態栄養治療センター 病態栄養治療部の窪田 直人 准教授らの共同研究グループは、2型糖尿病の基盤であるインスリンの働きが悪くなる「インスリン抵抗性」に関連する特徴的な腸内細菌および糞便代謝物を特定……

### マクロファージによる炎症反応収束に「硫黄代謝」活性化が重要と判明 —東北大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2023/8/23 <https://www.qlifepro.com/news/20230823/xct.html>

▼関連リンク・東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2023/08/press20230822-02-macrophage.html>

#### 炎症の収束に関わる代謝パスウェイは？

東北大学は8月22日、マクロファージによる炎症反応の収束には「硫黄代謝」の活性化が鍵となることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の武田遥奈大学院生、加齢医学研究所環境ストレス老化研究センターの村上昌平助教、遺伝子発現制御分野の関根弘樹講師、本橋ほづみ教授らの研究グループと、熊本大学大学院生命科学研究部微生物学講座の澤智裕教授、九州大学生体防御医学研究所附属高深度オミクスサイエンスセンターの馬場健史教授、新潟大学医学部保健学科の佐藤英世教授、東北大学大学院医学系研究科環境医学分野の赤池孝章教授との共同研究によるもの。研究成果は、「Redox Biology」に掲載され……

## 健常者の「うつ気分」の変化を客観的に測れる脳波活動を発見—筑波大

QLifePro 医療ニュース - 2023/9/5 <https://www.qlifepro.com/news/20230905/prr.html>

▼関連リンク・筑波大学 TSUKUBA JOURNAL

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/medicine-health/20230904180000.html>

### 脳波からうつ病の早期発見に成功した例はなかった

筑波大学は9月1日、健常者のうつ度を推定可能な脳波活動を発見したと発表した。この研究は、同大システム情報系の森田昌彦教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載され……

## 大麦β-グルカンおよびアラビノキシラン抽出物の単回投与は 腸内発酵を介してセカンドミール時の血糖値を低下させる

-科学雑誌『Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry』掲載-

株式会社はくばく - 2023/8/22 <https://www.hakubaku.co.jp/news/540/>

株式会社はくばくは、大妻女子大学家政学部青江誠一郎教授との共同研究により、動物モデルで初めて大麦由来のβ-グルカン、アラビノキシランの単回摂取によるセカンドミール時の血糖値低下について明らかにしました。

なお、本研究成果は科学雑誌『Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry』(Biosci Biotechnol Biochem. 2022 Oct 28; zbac171)に掲載……

## シールド乳酸菌®の摂取が健常成人男女の体調を維持

“健康力をサポートする”をキーワードに選抜されたシールド乳酸菌®の効果を確認 ～科学雑誌『Nutrients』掲載～

森永乳業株式会社 - 2023/8/24

<https://www.morinagamilk.co.jp/release/newsentry-4274.html>

森永乳業では、このたび、山口県・山口市、やまぐちヘルスラボとの産官連携で臨床試験を実施し、シールド乳酸菌® (Lacticaseibacillus paracasei MCC1849) の摂取が、健常成人男女の鼻づまり、のどの痛みといった局所症状や、局所および熱っぽさなどの全身症状を含め総合的に解析した風邪様症状の自覚症状を緩和することを確認しました。本研究結果がNutrients誌に掲載されましたので、ご報告……

## 国内初、脳科学に基づくごま油の香りの 効果・効用に関する研究結果を発表 ～ごま油の香りは食欲増進や記憶形成に効果的である可能性を示唆～



竹本油脂株式会社、株式会社NTTデータ経営研究所 - 2023/8/28

<https://www.nttdata-strategy.com/newsrelease/230828/>

竹本油脂株式会社(本社：愛知県蒲郡市、代表者：竹本 元泰、以下 竹本油脂)、株式会社NTTデータ経営研究所(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：山口 重樹、以下 NTTデータ経営研究所)は、脳科学的なアプローチに基づいてごま油の香りが食欲や空腹感、記憶などに与える効果を検証する国内初(※当社調べ)の実験を実施しましたのでお知らせ----

## ローズヒップ由来ティリロサイドによる脂質異常症予防作用の可能性が明らかに 「日本生薬学会 第69回年会」において発表

大学プレスセンター - 2023/8/30 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51379.html>

森下仁丹株式会社(本社：大阪市、代表取締役社長 森下雄司、以下「当社」)は、近畿大学薬学総合研究所・同大アンチエイジングセンター(本部：東大阪市、学長 細井美彦)の森川敏生教授との共同研究において、当社の独自素材であるローズヒップエキスに含まれるティリロサイドに、高脂血症などの脂質異常症を予防する働きがあることを明らかにしました。この成果について、2023年9月9日(土)～10日(日)に東北医科薬科大学で開催される「日本生薬学会 第69回年会」にて発表-----

## 資生堂、エクトインがメラトニン合成を促進し 肌の免疫機能強化へと導く可能性を発見

～肌の免疫リズムに着目したアプローチで過酷環境にも揺らがない健やかな肌へ～

株式会社 資生堂 - 2023/8/22

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003680>

資生堂は、抗酸化・抗炎症効果を有するホルモン「メラトニン」の肌での合成が夜間に高まること、そして、「エクトイン」が、肌におけるメラトニン合成酵素遺伝子の発現を促進することを発見しました。メラトニンは脳だけではなく肌でも合成され、紫外線や活性酸素などのダメージから肌を守ることが知られています。これらのことから、夜間に合成が高まるメラトニンの合成が促進されることで、ダメージ因子と戦う「肌の免疫機能」の強化が期待できます。

本研究成果は、肌の免疫リズムに着目した新たなスキンケアの価値創造に向けて応用し、お客さま一人ひとりの美しさを引き出し、健やかな肌を守り抜くことを目指し-----

## 角層細胞のうるおい状態を可視化する新技術を開発

～うるおい状態の経時的な測定や、異なる製剤間でのうるおい状態の比較が可能に～

花王株式会社 - 2023/8/23

<https://www.kao.com/jp/newsroom/news/release/2023/20230822-002/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）解析科学研究所・スキンケア研究所は、粘着テープで採取した肌の角層を顕微 ATR-IR イメージング法\*1 を用いて解析した結果、角層細胞ひとつひとつのうるおい状態を画像として捉えることに成功しました。さらに、角層細胞のうるおい状態を数値化し、定量的に比較できるようになりました。これにより、角層細胞そのもののうるおい状態の経時的変化や、異なる製剤間でのうるおい状態の違いがわかるようになりました。今後、角層細胞のうるおい状態を解析する新たな技術として、化粧品の開発に応用……

## **サンスター、化学物質の皮膚感作性を定量的に予測する AI を独自に開発** **～第 50 回日本毒性学会学術年会にて発表～**

サンスターグループ - 2023/8/24

<https://www.sunstar.com/jp/newsroom/news/20230821/>

サンスターグループ（以下、サンスター）は、化学物質が皮膚に接触した場合にアレルギー反応を引き起こすリスクを評価する試験（皮膚感作性試験）において、アレルギーが誘発される強度を予測する AI を独自に開発しました。皮膚感作性は従来、動物実験によって評価されてきました。しかし近年では、動物愛護の観点から、動物を使用しない試験方法の開発が強く求められています。今回開発した AI では、動物実験を実施せずに化学物質の皮膚感作性強度を予測することができます。

本研究成果を、「第 50 回日本毒性学会学術年会」（2023 年 6 月 19 日（月）～6 月 21 日（水）、於：パシフィコ横浜）にて発表……

## **大阪公大、検査時間を 2 日から約 1 時間に短縮する食品の細菌検査技術を開発**

マイナビニュース - 2023/8/29

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230829-2760228/>

## **老化治療の最先端「セノリティクス」で健康寿命はどこまで延びるか**

ウェルネス総研レポート online - 2023/8/30 <https://wellnesslab-report.jp/2929/>

今、世界が注目する「セノリティクス」とは、老化細胞除去という意味です。薬品などによって老化細胞を除去し、老化を防止・遅延させれば老化によって起きるさまざまな病気の予防や改善につながるのではないかと考えられています。こうした考えの下、東京大学医科学研究所所長で癌防御シグナル分野の中西真（なかにし・まこと）教授は研究を進め、老化細胞を選択的に除去

する「GLS1 阻害薬」が加齢現象や病気を改善することを証明。新たなアンチエイジング療法の開発に貢献することが期待され-----

## 体内の炎症状態に影響を与える食事性炎症指数「DII」とは

ウェルネス総研レポート online - 2023/8/30 <https://wellnesslab-report.jp/2907/>

軽度であっても慢性的な炎症は、様々な疾患の発症リスクとなることが分かっています。食が体内の炎症状態に与える影響を評価する指標である食事性炎症指数 DII は、国外では検証を終えているのに対し、日本ではまだ妥当性が明らかにされていません。今回は DII とは何か、開発の背景や捉え方について解説-----

## 食品産業以外も注目する新しい概念「ガットフレイル」とは

ウェルネス総研レポート online - 2023/8/31 <https://wellnesslab-report.jp/2917/>

現代の日本人は、機能性ディスペプシアや便秘などの胃腸にフレイルを抱える人が非常に多いと言われています。しかし、検査や診断によって器質的な異常が指摘されなければ治療対象とはならず、本来のパフォーマンスが得られぬまま日常を過ごす人がいるのも事実です。こうした、“胃腸の虚弱性”を「ガットフレイル」と名付け、その身体的社会的影響の大きさに警鐘を鳴らしている京都府立医科大学の内藤 裕二教授に、「ガットフレイル」を提唱された目的、「ガットフレイル研究会」の概要などについて伺い-----

**以下の2件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2023年8月23日～9月5日）から選定したものです。**

## 「代謝の健康」を導く時間運動学のエビデンス 最大の効果を得る運動タイミングは？

<https://sndj-web.jp/news/002397.php> (2023/8/24)

時間運動学に関する新しいレビュー論文が報告された。心血管代謝の改善に焦点を当てて考察した、スペインの研究者によるもの。要旨を紹介-----

## β-アラニンが高齢者の認知機能低下や抑うつを抑制する可能性 プラセボ対照 RCT の報告

<https://sndj-web.jp/news/002399.php> (2023/8/26)

アスリートの運動パフォーマンスの維持や向上という点で確かなエビデンスが確立しているβ-アラニンについて、高齢者の認知機能や気分状態に対しても有用である可能性を示す研究結果が報告された。ベースライン時に認知機能が低下している高齢者での認知機能改善などが認められたと-----

[記事のカテゴリに戻る](#)

## ■ その他の食品関連科学・技術情報

### AIに味を推定させ、産地の違いも再現する調味装置「TTTV3」を明治大学 総合数理学部 宮下芳明研究室が発表

大学プレスセンター - 2023/8/31 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51382.html>

明治大学総合数理学部先端メディアサイエンス学科 宮下芳明研究室は、産地や品種の違いも再現する調味装置、TTTV3 (Transform The Taste and reproduce Varieties)を開発しました。

この装置は、総務省「異能 variation プログラム」で宮下教授が開発した味覚メディア「味わうテレビ TTTV」を発展させたもので、基本五味（甘味、酸味、塩味、苦味、うま味）や辛味などの味を感じさせる液体を混合噴霧して味を再現-----

### トウガラシ果実の香りを決める遺伝子を特定 フルーティーでエキゾチックな香りを持つ果実の品種育成に期待

大学プレスセンター - 2023/9/4 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-51414.html>

近畿大学大学院農学研究科（奈良県奈良市）准教授 小枝壮太、博士前期課程2年（当時）野田朋那、蓮真海らの研究グループは、トウガラシの成分分析、分子生物学および生化学的解析を行い、果実のフルーティーでエキゾチックな香りに関与する遺伝子を特定しました。この遺伝子に着目することで、今後、トウガラシ果実の香りを対象とした品種改良が進むと期待されます。

本研究に関する論文が、令和5年（2023年）8月30日（水）に、植物学分野の国際学術誌"Plant Cell Reports（プラントセルレポート）"にオンライン掲載され-----

### アピ、多様な原料加工技術でサプリを差別化

マイナビニュース - 2023/8/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230828-2759081/>

## 北大が砂糖と塩の混合比を画像から予測するシステムを開発 - 熟練者の眼を再現

マイナビニュース - 2023/8/28

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230828-2759190/>

## レモン果汁でのマリネ調理が牛肉の柔らかさや消化性に与える影響を解明！

マイナビニュース - 2023/8/26

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20230826-2757337/>

## ■ その他の科学・技術情報

## サンスター、ハミガキ・洗口液の防腐効果を AI にて予測するモデルを開発

IoT NEWS - 2023/8/31 <https://iotnews.jp/ai/232602/>

[記事のカテゴリーに戻る](#)

- 内容についての問合せ先：学術情報部 E-mail：[gakuj@jhnfa.org](mailto:gakuj@jhnfa.org)
- 配信元 公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>  
渉外広報室 E-mail：[shogaikouho@jhnfa.org](mailto:shogaikouho@jhnfa.org)
- 配信先の変更など 総務部 E-mail：[kaiin@jhnfa.org](mailto:kaiin@jhnfa.org)

### ■ 「健康・栄養食品研究」掲載論文の転載をご希望の方へ

当協会指定の書式に必要事項を記入して、申請頂く必要がございます（料金はかかりません）。なお、販促資料への利用等の商業利用の場合は、申請の条件として「執筆者（又は資金提供者）への内容提示と了解取付」、「転載内容が分かる関連資料の提出」をお願いしております。申請書が必要な方は、学術情報部までご連絡下さい。

問合せ先：学術情報部

E-mail：[gakuj@jhnfa.org](mailto:gakuj@jhnfa.org)

電話番号：03-3268-3133

以上